

Blackboard@Tamagawa 活用事例

01

教育学部教育学科教授： 石橋 哲成 先生

教育学部 1 年次対象の「全人教育論」における活用

「全人教育論」は生前、小原國芳先生が全学の一年生を対象に一人で持たれていた科目です。現在は教育学の専門の先生方が手分けして、6 学部全 1 年生を対象に講義されています。教育学部 1 年生 (300 名) に対しては、教育学部長でもある石橋哲成先生が、自分が全員に対して直接話したいという意向を持たれ、入学直後の第一セメスターにおいて 1 年生を 4 つのクラスに分け、4 コマの授業を持たれています。

現在、「全人教育論」は 1 単位科目であり、一回の授業時間は 50 分です。この短い授業時間を有効に生かすために、石橋先生は Blackboard@Tamagawa を活用されています。どのように活用されているのか、紹介いただきます。



科目の実施規模と Blackboard の活用

◆ 科目名：全人教育論

教育学部教育学科・乳幼児発達学科

1 年生全員 (300 名を 4 クラスに分け実施)

◆ 授業の概要: 本学の掲げる教育は「全人教育」であります。全人教育とはそもそもどのような教育なのか、とりわけ小原國芳先生が主張された全人教育の内容はどのようなものであり、現代社会にあってどのような意義を持つものなのか、また、大学レベルにおいてはどのように実現されるべきものなのかを追求しています。

講義補助資料の掲載

「全人教育論」の授業のために、学生には各自テキストとして『全人教育論』(小原國芳著/玉川大学出版部刊)と『教育とわが生涯 小原國芳』(南日本新聞社刊)の 2 冊を持っています。この 2 冊は、小原國芳の全人教育思想の形成過程、全人教育思想の内容を吟味

する時に使用していますが、授業全体の構成からして、これだけでは足りません。そこで講義の補助資料として、以前は毎回授業中にプリントを配布していました。教育学部の学生は一般的に授業の欠席は少ないのですが、やむを得ず休む学生もいます。そこで講義補助資料をこの Blackboard@Tamagawa に掲載し、必要な学生には各自で見ってもらうことにしました。おかげで、授業に休んだ学生が翌週に「前回のプリントを下さい」と言うこともなくなりましたし、授業では直接取り上げなくても、学生の参考になりそうな資料や文献も載せることによって、興味を持った学生はさらなる追求が可能になったように思います。

ビデオ資料の掲載

Blackboard@Tamagawa には、講義補助資料のプリントだけではなく、ビデオ資料も 3 本ほど掲載しています。小原國芳先生の全人教育思

想は、先生の生き方と深く関わっており、その意味では、先生の「全人教育論」を正しく理解するためには、先生の生涯を知ることがとても重要です。学生たちには5月の連休を使って先に挙げたテキストの一冊、『教育とわが生涯 小原國芳』（南日本新聞社刊）を読んで感想文を書いてもらっていますが、その補いとしてビデオ『新教育の開拓者 小原國芳』を見せるようにしています。本で読んだ場面を動く場面で確認することは、臨場感も伴って理解を深めることになります。



全人教育論 (ビデオ教材)

しかし、このビデオは約40分間かかるものであり、50分の授業の中で全部放映すれば、授業者が講義できる時間はわずかとなり、学生たちには、いくらいいいビデオであっても、「この授業はビデオを見て終わった」という悪い印象を残すことになってしまいます。そこで、授業では導入として15分ほど紹介し、残りの部分は各自で授業が終わったあと、自宅あるいは自習室でBlackboard@Tamagawaを開いて見てもらうことにしています。また、玉川学園の各部における全人教育の実際を見てもらうためには、過去に製作された『玉川学園の教育』のビデオ、生きた小原國芳先生の姿や話しぶりを見てもらうためには、生前先生がNHK教育テレビで対談され、

放映された『心を育てる』もBlackboard@Tamagawaに掲載しています。このようにBlackboard@Tamagawaは、短い授業時間故に出てくる問題の解消にも役立っています。

今後とも教育学部では

教育学部では、現在いろいろな授業の中で如何に有効にBlackboard@Tamagawaの使用が可能かを、それぞれの先生がそれぞれの立場で考え、実践してくれています。最近、教育実習の事前指導の一環として小学部の授業参観を実施しましたが、急病で後半の質疑に出席できなかった学生に対しては、Blackboard@Tamagawaが役立ちました。

また、現在3年生で来年春の教育実習を控えた学生は、今セメスターに実施される「教育実習事前指導」に毎週出席することが義務付けられています。アメリカのマーシャル大学に留学中の学生には、毎週の事前指導の授業をアメリカで、Blackboard@Tamagawaを通して聴講してもらうことにしました。このことによって、教職希望の学生でも、3年次の秋セメスターに留学が可能となりました。今後とも教育学部では、Blackboard@Tamagawaの有効利用を積極的に考えていきたいと思っています。



教育実習事前指導 (ビデオ教材：質疑の様子)

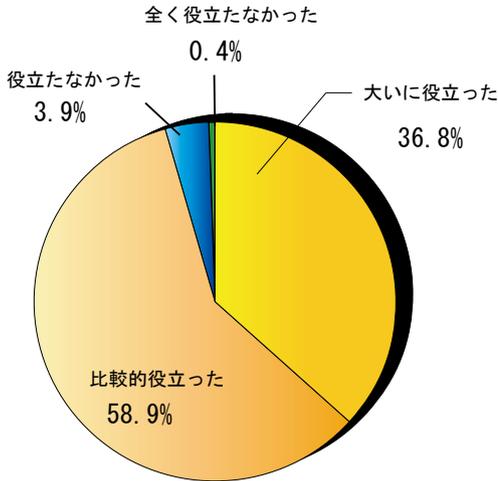
学生アンケートの結果から

02

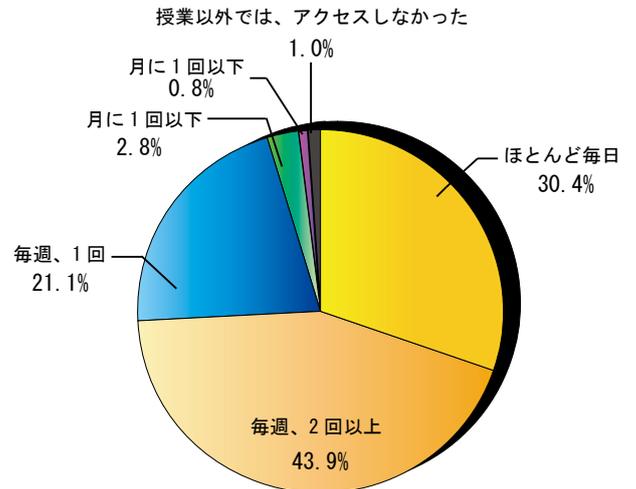
2006 年度 春学期末に実施した科目終了アンケートの回答から、4 項目をご紹介します。

アンケート実施方法：Blackboard@Tamagawa のアンケート機能 (匿名) により回収。回収数：1,156 名、回収率：16%

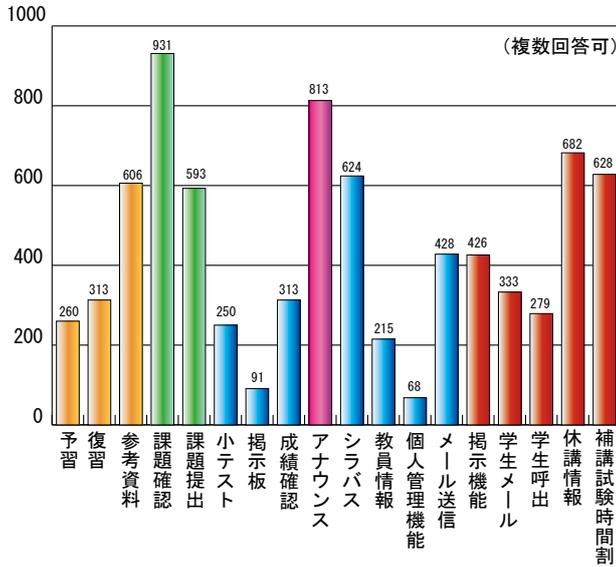
1. Blackboard@Tamagawa は大学生生活に役立ったか



2. Blackboard@Tamagawa へのアクセス頻度



3. Blackboard@Tamagawa の役に立った機能



9 割以上の学生が Blackboard@Tamagawa が大学生生活に「大いに役立った」「比較的役立った」と回答しました。

また、アクセス頻度については、3 割の学生がほとんど毎日、毎週 1 回以上アクセスする学生については 9 割を超えています。

役立った機能では、ラーニング機能だけでなく、ポータル機能の評価が高いことが分かります。(赤棒グラフ部分)

4. 自由記述回答から

- ポータルが構築されたことで情報量が増えた。
- 授業の確認、テストやレポートについて確認できる。
- 授業を受けるにあたっての意欲が増した。
- 補講や試験の時間割の情報がとても役立った。
- 学校生活を送る上でほとんどの情報が確認できるのでこれからも活用していきたい。



- 履修登録結果を掲載してほしい。
- すべての科目を開講してほしい。
- 学部掲示板の情報をすべて載せてほしい。
- 奨学金や就職に関する掲示などを載せてほしい。
- 自宅でインターネット接続をしていないため、不便だった。
- 新情報掲載の通知を携帯電話へ送ってほしい。



2006 年度春学期のコース統計

2006 年度春学期の Bb 活用率とコース統計結果をご報告します。2006 年度春学期を終えての活用率は 44.2% となりました。2005 年度春学期の活用率 36.8% と比較すると、7.4% の増加となりました。各授業での利用形態も、アナウンス・講義資料の掲載といったものだけでなく、課題提出や成績表など Blackboard@Tamagawa の機能をさらに活用した形態へと推移しています。春学期、特に増加が顕著だったのは、工学部です。教員グループでの利用をきっかけとして、授業での利用が拡大しました。

また、グループ（授業外）の利用数は、102 グループとなりました。学生と教職員が同じグループにアクセスでき、アナウンス、資料のダウンロード、ディスカッションボード (BBS) を通して双方向の情報共有ができる利点を生かし、「コスモス祭」「淡江大学留学生研修」「小学校英語資格指導者認定 (J-Shine)」をはじめとした任意のグループで活用が進んでいます。

表 .Blackboard@Tamagawa 経年統計 (コース数等)

学部	2004春				2005春				2006春			
	コース数	受講者のべ数	教員実数	活用率	コース数	受講者のべ数	教員実数	活用率	コース数	受講者のべ数	教員実数	活用率
文学部	116	3,863	36	21.9%	198	8,328	61	45.9%	225	10,065	74	55.7%
農学部	11	753	7	5.0%	39	2,189	17	19.4%	67	3,930	24	29.1%
工学部	23	900	14	6.9%	78	3,854	37	27.2%	138	5,333	47	44.4%
経営学部	241	7,480	48	88.3%	224	6,567	65	100.0%	209	6,478	63	99.1%
教育学部	28	1,109	11	7.9%	45	2,086	19	17.0%	65	3,708	24	25.1%
芸術学部	20	784	10	2.5%	48	2,087	27	24.0%	63	2,881	22	27.0%
大学院	4	12	0	0.8%	30	112	0	19.5%	24	65	0	13.6%
コア科目教職関連科目	19			10.2%	49			25.6%	67			32.7%
総計	462	14,901	126		711	25,223	226		858	32,460	254	

(注) ①コース数：教室での対面授業を 1 コースとして、授業コード区分別 (各学部、コア / 教職共通科目) に集計。

②受講者のべ数、教員実数：利用者を所属学部別に集計。

③活用率：各学部で開講されている授業の授業コードを元に集計。授業のうち、Blackboard を活用している割合 (= ②÷①× 100)

④コース数と活用率の違い：コース数は、Bb 利用対面授業数を把握する目的で集計。活用率は、全授業中の活用の割合を把握するため、授業コードを元に集計。

編集後記

2006 年度開始したパーソナライズした情報の提供 (ポータル機能) は学生の利用度・満足度ともに高く、大学生活を支える基盤となりつつあります。アクセス頻度の増加により、ラーニングとの相乗効果がさらに高まるが見込まれます。秋学期授業でも Blackboard@Tamagawa をぜひご活用ください。

e-Education NewsLetter 2006 Vol.3

2006 年 10 月発行

玉川大学

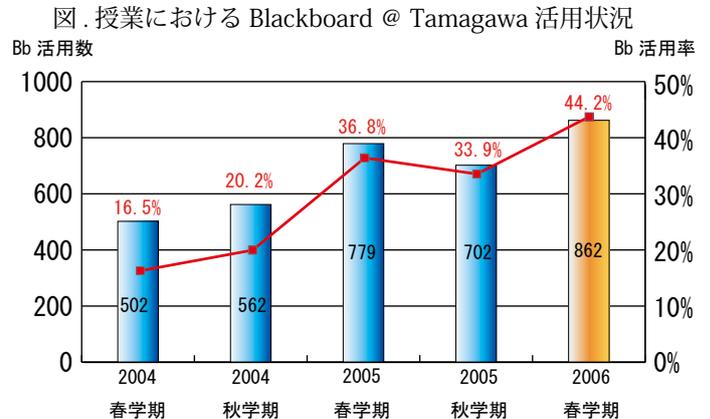
e エデュケーションセンター メディア教育推進室

東京都町田市玉川学園 6-1-1

Tel : 042-739-8820

Fax : 042-739-8825

e メール : bbhelp@tamagawa.ac.jp



①授業数：正式に登録され、開講された授業コード数

②活用数：①の授業のうち、Blackboard を活用した授業コード数

③活用率：授業のうち、Blackboard を活用している割合 (= ②÷①× 100)